

BRIDGEPLUS

関東労災病院医療連携情報(令和元年8月号)

Information

□ クローズアップ診療 (循環器内科)

□ アトピー性皮膚炎の新展開 (皮膚科)

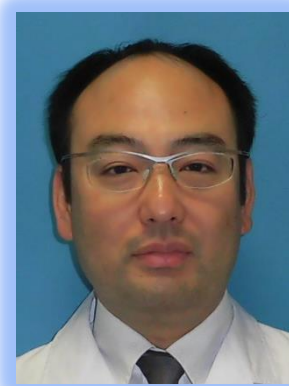
クローズアップ診療 (循環器内科)

今回はアブレーション治療についてクローズアップしました。

アブレーション治療について

関東労災病院では懇切丁寧に、アブレーション説明をさせて頂き、特に、合併症の予防に気を使って行っています。

(循環器内科 副部長 渡邊 則和)



関東労災病院の循環器内科の副部長の渡邊と申します。不整脈治療、特にアブレーションを専門にし、現在、不整脈心電学会の評議員をしています。2006年から2009年まで関東労災病院に在籍させて頂き、すでに皆様に大変お世話になっていると思います。2009年に4月に昭和大学にもどり、その後、ドイツのライプチヒハートセンターに留学しました。同センターは年間約2500例アブレーションを行っている施設で、私もドイツの一時的な医師ライセンスをとり、たくさんの症例を実際にアブレーションさせて頂きました。一番有名なCARTOシステムしかない時代に、日本で使えなかったNAVXシステムと使用されていなかった可変シースを使用し、心房細動のアブレーションを行いました。これが、同施設でのオリジナリティーでした。かなりの症例を実際に経験し、アブレーション全般に対し、非常に自信となりました。2011年に大学にもどり、後輩の指導を行い、昭和大学で可変シース使用+NAVXシステムを使うライプチヒスタイルの心房細動アブレーションを根付かせ、日本全国に紹介しました。自分自身はCCUの班長でありましたので、重症者の集中治療を見つつ、VT stormの患者さんのアブレーションを行っていました。(裏面につづく)

本誌へのご意見、ご要望がございましたら、右記mailへお寄せ願います。地域医療連携の充実に役立てていけるよう努めてまいります。

発行人: 地域医療連携室
☎044-411-3131
mail: renkei4@kantoh.johas.go.jp

自分自身の研究は心房細動アブレーションの方法だけでなく、心房細動アブレーション時の脳梗塞や食道潰瘍の発生に対する予防についてもおこなってまいりました。その研究をもとに、大学のアブレーションの合併症を減少させることができました。今回、2018年10月から再度、関東労災病院に復帰させて頂きました。

現在、アブレーションは私・渡邊と大沼で行っています。アブレーションのできる施設が増えていると思いますが、**関東労災病院は懇切丁寧に、アブレーション説明をさせて頂き、特に、合併症の予防に気を使って行っています。**すべての不整脈に対するアブレーションに自信を持っていますので、是非、患者さんのご紹介をお願い致します。すでに私は2年前から週1回、関東労災病院のアブレーションを手伝っていました。そのころは、年間症例数が50例でしたが、週2回手伝うようになり2017年は99例。2018年は142例まで増えました。NAVXシステムも労災病院で購入し、私が赴任したことにより、いつでもアブレーションができるようになりましたので、急性冠症候群だけでなく、是非、不整脈の患者さんの紹介もよろしく願いいたします。不整脈の患者さんは、圧倒的に心房細動の患者さんが、多いと思いますので、ワーファリンに比べ投与しやすい新規抗凝固薬を是非、各先生方で処方して頂き、その後に御紹介して頂ければ、かなり助かります。アブレーション後には、積極的に近医の先生方に経過観察をお願いすると思いますので、よろしく願い致します。

アトピー性皮膚炎の新展開

デュプルマブを2週に一回注射することでかゆみが改善しアトピーの治療に新たな世界が開けました。

(皮膚科 部長 足立 真)



アトピー性皮膚炎は皮膚科では最も知名度の高い疾患で罹患者も全国で数百万人と思われれます。アトピーとは元はギリシャ語で「奇妙なもの」という意味でギリシャ・ローマ時代から知られている慢性的に湿疹皮膚炎を繰り返す皮膚疾患です。長年わからなかったアトピー性皮膚炎のかゆみの原因ですが、数年前に免疫細胞の出すサイトカインであるインターロイキン4と13であることを、2010年に当院皮膚科に勤務していた野田真史先生が米ロックフェラー大での研究で発見しました。この研究成果から薬の開発がなされ、昨年5月からこのIL4, 13に対する抗体医薬製剤であるデュプルマブが日本でも使用可能になりました。アトピー性皮膚炎の治療は日本皮膚科学会ガイドラインに準じてステロイド外用剤が主体ですが今まで発疹は治ってもかゆみがとれない患者さんが多く、治療に難渋していましたがこのデュプルマブを2週に一回注射することでかゆみが改善しアトピーの治療に新たな世界が開けました。この注射は外来で可能ですが一回、3割負担で25,000円はかかるので費用面が問題です。当院ではすでに使用し、かゆみがなくなったと感謝されていますので対象の患者さんがいらっしゃいましたらご紹介をお願いいたします。

○ご不明な点、今後、希望する演題等がございましたら、遠慮なく地域医療連携室までお申し出願います。

(☎:044-411-3131 mail : renkei4@kantoh.johas.go.jp)



当院は地域のランドマークを目指す地域医療支援病院です。

BRIDGEPLUS